

P-042

メディアによる子どもへの影響の重要性を認識し取り組みを継続している保育園—T保育園の文化となった「メディアの取組」—**二宮 球美¹⁾、松岡 聖美²⁾、牛ノ浜奈央²⁾、鬼木紀代美³⁾**¹⁾玉名ゆりかご保育園、前九州看護福祉大学、²⁾九州看護福祉大学、³⁾旭保育園

初めに「こどもに及ぼすメディアの影響」について日本小児科医会2004.2、日本小児科学会2004.4が「子どもとメディア」に関する提言を行った。その後日本小児科医会子どもメディア委員会の提言として、メディア接触の低年齢化、長時間化を上げ、2歳以下の象徴機能が未熟な子どもや発達に問題のある子どもの接触は、親子と一緒に遊ぶ時間を奪い、言葉や心の発達を妨げる。メディアの内容は直接的な影響を受けるために精査が必要で、メディアリテラシーを育てる必要性がある。と上げ関連した科学的根拠を提示している。継続的なメディアの取組による保育園の関わりの変化T市の小児科医・大学教員・保健師らで子どもの「育ち」にメディアが影響しているかを知ることで、子育ての一助になると「子どもと若者とメディアを考える会」を2006立ち上げ、その後子育てに関わる団体などの参加、T保育園はT市保育連盟の一つとしてこの会に参加した。同年T市保育園のテレビ全面撤去、メディア委員担当配置、毎月のメディアの会研修に関わる一方、各園でのメディアに対する取組を行ってきた。コロナ禍において2020.2を最後に集合研修中断、T市の活動として各園で独自の取り組みを継続していた。T市T保育園はこれら内外の活動を20年近く行ってきた。T保育園は月1回1週間の家族ふれあい週間として、「食事時のテレビなどを消す」「夜9時までには就寝する」が行われ、その際の遊びや保護者とのかわりを担任などに話す。という活動を行っている。これらは保護者との大切なコミュニケーションの機会になり、遊びの創造にもつながる。子どもたちは、これらの評価のスタンプを押してもらうことで達成感もあり、その際の会話を担任に伝える機会となっている。これらの取組は子どもの「睡眠」の確保、メディアに触れる「時間の制限」保護者や保育士との「コミュニケーションを増やす」ことにつながり、子どもの発達を促すことにつながってきている。最後にT保育園のお帰りのあいさつの後「お約束 ご飯の時にはテレビを消して、午後9時までには寝ましょうね エイエイオ!」と言って、さよならします。まさにメディアに対する文化と言えるでしょう。子ども・保護者とともにメディアとどのように関わるか、子どもと保護者がどのようにそれをサポートするか、いろいろな研修を企画、参加されたことでT市の各々の保育園の文化として定着してきていると考えここに報告する。